

○女優から修道女に。マドリード、2014年5月1日○

「主は間違われることはありません。主が私にこの役を当てられたので、私は断ることができませんでした」とオラリャ・オリベロス Olalla Oliveros はなぜモデルや映画やテレビの仕事を捨てて、修道生活の道を選んだかを説明する。この談話はユーチューブ <http://gloria.tv/?media=604957> に出ている。

修道名オラリャ・デ・シー・デ・マリア（マリアの「はい」のオラリャ）は36歳。前途有望の芸能関係の仕事に背を向けて、スペインに二つの拠点をもつ大天使聖ミカエルの修道会に入会した。

今年の5月1日で彼女がこの決定をしてから4年になる。この決断は、家族や仕事の同僚から理解されなかったが、彼女がその子細を公に語ることはつい最近までなかった。

FARO（スペインの新聞）は同会が経営するマドリードにある老人ホームに彼女がいることを突き止め、取材を申し込んだが、電話での申し込みに対して「総長様からは私が自由に応じてよいとの許可をもらっていますが、私はお断りすることにしました。あなたの仕事がうまくいきますように大天使聖ミカエルに祈ります」と丁重に断られた。

修道会に入る前には、オラリャは非常に有名な商品の広告でモデルとして登場し、人気のあるドラマの脇役を務めていた。しかし、「私のもらっていた役は、うぬぼれの強い軽薄な女の子の役でした。私は心の中で『いつか修道女の役をもらえるかしら』とつぶやいていました。というのは、修道女の役なら立派にやる自信があったからです。

「ビゴー彼女の故郷ーに帰ると、友達たちからよく『あのお店に行ったら、あなたがカタログに載っていたよ』とか『コマーシャルであなたを見たよ』とか言われました。そのように言われると、当座はうれしくなります。感嘆の目で見られて、自分が認められていると感じるからです。・・・しかし、一人になって神と語り合うと、自分をごまかすことはできません。私は幸せではありませんでした」

オラリャの親友でありマネージャーを務めるミレリャ・メレロはスペインの新聞に、オラリャの決定を聞いたとき腰を抜かしたと言っている。その決断をしたとき、彼女は「ある仕事を約束されていたから」だ。「有名な俳優たちが出演するドラマで重要な役をもらっていたのです。一つの大切な仕事で実績を積み上げつつあったのです」。また彼女の決断をあざ笑った人もあった。彼女の周囲の人たちは彼女が深い信仰を持っていたカトリック信者であることを知らなかったと言う。「それは彼女の個人的な決断ですから、私は尊重します。私は宗教的な人間でもありませんし、カトリック教会を信じていません。しかし、オラリャはなぜそう決めたかを説明してくれました。私は彼女が神様から召し出されたと信じています」と言う。

彼女の家族は、女優から修道女になるというこの決断が理解できなかった。家族の証言によれば、オラリャがこの修道会を知ったのは、高校の友人を通じてであった。この友人の兄が、霊的な援助によって薬物依存から救われていた。それでオラリャはこの会を15歳のときから知っていた。

三日間ポルトガルのファティマで過ごし、ほとんど10年近く働いた町マドリードに戻った。そのとき、オラリャは頭に次々に質問が浮かんでくるのを感じた。「私にこの力を与えてくれるのは何だろう。私にこの平和をもたらしているのは何だろう。神が私に力と光をお与えになっていたのだ。・・・頭から修道女の姿が離れなくなった。私は笑っていた。主よ、私に修道女になれとは、いったいどういうことです、と。笑ったかと思うと、涙が流れてきました。夜バスの中でずっとそうしていました」

「ミサに行って、赦しの秘蹟を受け、司祭と話しました。イエス様と話そうとすると、笑ってしまっ

私は自分が幸せだと感じていました。主がそれをお望みになっていたと感じていました」

オラリャは修道女になろうとは夢にも思ったことがなかった。「私は女優になることを夢見ていました。実際、仕事はうまくいってました。・・・しかし、今の幸せは、恋人も、「なんて君はきれいなんだ」という褒め言葉も、ハイヒールも与えてくれません」。

注。この修道会は **Orden y mandato de San Miguel Arcangel** で、創立者はビゴ出身のミゲル・ロセンド・ダ・シルバ。この会は、一般信徒も共同生活をする奉獻生活者も含む。オラリャのような後者の女性たちは、従順、貞潔、隣人への奉仕の私的な誓願をする。教会法上は、修道女ではないが、制服を着用するのでそう呼ばれている。

